

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.20 (2014年7月7日号) ◆

憂鬱な梅雨の季節ですが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。20世紀メディア研究所のホームページが少し新しくなりました。五月末から公開中の「検閲研究ウェブサイト」に飛ぶリンクができました。また本ニュースレターについても、発行から半年を経過したバックナンバー記事からネットで公開を始めました。どうぞお確かめ下さい。「Intelligence」会員専用ウェブサイト <http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> とあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。また、『Intelligence』15号の投稿原稿締切は9月末日です。

●ところで、これまで一部2000円で発売しておりました『Intelligence』を次号より一部2500円に値上げさせていただきたく、ご理解とご協力をお願い申し上げます。ただし、購読会員の皆様には会費値上げをいたしません。また、データベースの先行・無料閲覧等、会員向けサービスのいっそうの充実を企画しておりますので、ご購入の継続賜りたく、どうぞよろしく願い申し上げます。なおバックナンバーのセット特価販売を継続中です。ご希望の方は文生書院の「Intelligence」会員ページからお問い合わせ下さい。
<http://www.bunsei.co.jp/ja/hanbaidairi/books/523-intelligence.html>

●皆様には、陸軍中野学校跡地に早稲田大学がエクステンションセンター中野校を竣工いたしましたこと、ご存知でいらっしゃいますでしょうか。7月26日土曜日2時半より、NPO法人インテリジェンス研究所の次回の諜報研究会は、このゆかりありますエクステンションセンター中野校の地にて開催されます。

これに先立ちまして20世紀メディア研究所の編集委員である川崎賢子が、エクステンションセンター中野校で早稲田大学オープンカレッジの講座をひらきます。「逆転するヒロイ

ンたち」のタイトルで、川崎が編集した岩波文庫等をテキストに購読します。7月15日開講で、7月14日まで受講生を受け付けております。詳しくは以下のサイトをご覧ください。

<https://www.wuext.waseda.jp/course/detail/4715/>

また、9月27日から12月初旬までは、早稲田大学エクステンションセンターと20世紀メディア研究所連携オムニバス講座「検閲と危機の時代」を開講いたします。8月には概要が明らかになりますのでご案内申し上げます。こちらもよろしくお願い申し上げます。

【第85回20世紀メディア研究会 第7回日本経済史セミナー 合同研究会】

(早稲田大学1号館310教室 5月28日(土) 午後2時半～5時45分)

・池尾愛子「M・ブロンフェンブレナー(1914-1997)の日本訪問、1945-1952: 米国大学コレクションと『オリエンタル・エコノミスト』」マーティン・ブロンフェンブレナーは第二次大戦終了後3度にわたって日本に滞在した経済学者である。本発表はデューク大学所蔵文書等を用いて、シャウプ税制使節団、為替レート、ドッジライン、ECAFE等とのマーティン・ブロンフェンブレナーの関与、経済誌メディア『オリエンタル・エコノミスト』の戦前戦中戦後占領期の変容について論じた。

・島本マヤ子「ヘンリー・A・ウォーレスのアメリカ核独占に対する批判(1945-1948) ニューディーラーとして米国農務長官からルーズベルト大統領のもとでの副大統領を経て、終戦時にはアメリカ合衆国商務長官の地位にあったヘンリー・ウォーレスの核管理をめぐる言説を分析した。

・荒川憲一「日本海軍の石油自給政策(1919-1945)」太平洋戦争開戦の動機が対日石油全面禁輸であったことはよく知られているが、禁輸に対する対策措置はいかなるものであったか。北樺太油田、人造石油開発、蘭印石油と兵站について、ソ連、ドイツとの関係もふまえて分析、考察を行い、あわせて、選択できたが選択しなかった「未発の可能性」についての仮説を示した。

※ なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされます。
<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> をご覧ください。

●今年度は 20 世紀メディア研究会と NPO 法人インテリジェンス研究所の諜報研究会が隔月、交互に開催されます。どうぞご予定に入れてください。次回の 20 世紀メディア研究会は、9 月 27 日（土）に占領期美術研究特集として、五十殿利治氏、桑原規子氏、大澤佳枝氏のお三方に発表をたまわります。上述の早稲田大学エクステンションセンター中野校におけるオープンカレッジ「検閲と危機の時代」との兼ね合いのため 9 月 27 日は 15 時半開始とさせていただきます。10 月 11 日は、プランゲ文庫データベース・リニューアル一周年及び占領期生活世相誌（新曜社）刊行記念特別研究会を開催し永井良和氏をお招きします。11 月 29 日（土）には、戦中戦後の文学研究特集として、川崎賢子、滝口明祥氏、時野谷ゆり氏の発表を予定しております。なお前述の通りエクステンションセンター中野校において 7 月 26 日（土）には NPO インテリジェンス研究所による諜報研究会を開催予定です。場所とお時間がそれぞれ異なりますので、ご注意下さい。また、ご報告御希望の方は、20 世紀メディア研究所事務所 m20th@list.waseda.jp まで、メールにてご一報下さい。

【コラム・気になる新著その他】[敬称略]

赤坂真理『愛と暴力の戦後とその後』（講談社現代新書）は小説『東京プリズン』で東京裁判と現代を二重写しにし読書界に衝撃を与えた著者のエッセイである。赤坂は戦後占領と「私」の疎外された身体性との交錯に深い関心を寄せている。富岡幸一郎『川端康成 魔界の文学』（岩波現代全書）は、とくに戦後の川端作品やノーベル賞受賞講演「美しい日本の私」に、時代を超越した古典への意思とは対極的な「戦後」の影を見てとるあたりが、示唆に富む。そもそもノーベル文学賞の授賞システム自体がきわめて政治的なものという近年の研究も気になるところだ。7 月 17 日午後 8 時より、下北沢 B&B にて、富岡幸一郎氏と川崎賢子とのトークショーを行うので、そのあたりの議論が深まるかもしれない。お運び下さい。<http://bookandbeer.com/blog/2014/07/17/>

[6 月 30 日付 文責：川崎賢子]